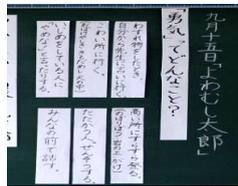


(1) 乙部小学校における「道徳の時間」の基本的な学習指導過程と評価について

	授業展開	評価材料	評価の視点	具体的な児童の姿(例)
導入	○ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。 ○問題意識を喚起させる。			
展開前段	○一人一人に判断させる場の設定。 ○多様な考えを練り合う場の設定。 ※多様な考えを促すための資料提示・発問構成・板書の工夫。	ノート等の記述、発言 ノート等の記述や追記、発言	・自分の考えをもっているか。 ・多様な考えを受け止めているか。	・自分ならどうするかという視点で思考している。 ・他者の考えに共感や納得をしたり、疑問を感じたり、考えが揺らいだりしている。
展開後段	○道徳的価値を自分事として考える場の設定。 ※自分事として考えるための補助資料の工夫。	ノート等の記述や追記、発言	・多様な考えを受け止めたうえで自分なりの考えをもつことができているか。	・他者の考えを聞いて、自分の考えが変化したり、あるいは、より確かなものにしたりしている。 ・他者の考えを取り入れて、よりよい考えを生み出そうとしている。
終末	○本時で学んだことをふり返る。 ※価値理解や人間理解を促す教師の説話等。	以前の記述、事前アンケート等と、本時との比較	・道徳的価値についての考え方を広げ深めているか。	・これまでの発言や記述と比べ、考えに広がりや深まりがみられる。 ・学習したことを、日常生活の様々な場面で活かそうとしている。

導入～ねらいとする道徳的価値への方向付けを図り、問題意識を喚起させる。

○道徳アンケートを活用する。



区分	学習活動	指導上の留意点
	①話題の提示、学習内容把握 ◆今日は「 <u>勇気</u> 」について学習します。「 <u>勇気</u> 」ってどんなことですか。	・事前に書かせた内容を短冊にして紹介する。

○写真やイラスト、映像等を活用する。



区分	学習活動	指導上の留意点
	①学習内容の把握 篠原選手の人物像にふれる ◆今から動画を見てもらいます。	・篠原選手のコメント前で区切り、続きを考えることで、その後の学習につなげる

展開前段①～道徳的葛藤場面に焦点化させるための資料提示を工夫する。

児童の生活経験には個人差や様々な背景があり、これまでに触れていた道徳的価値の濃淡にも差がある。そのため、道徳の時間においては、資料という共通の疑似体験を通して、道徳的価値についての考えを深めたり、多様な感じ方や考え方について学んだりすることが必要になってくる。

そのため、「どんな資料と」「どのように出会うか」ということは、道徳の授業を構築する上で大変重要である。とりわけ読み物資料については、「読み物としてのヤマ場」ではなく、「道徳的葛藤のヤマ場」を生み出すための活用について、次のような共通理解に立った。

○児童の実態に合わせ、理解を促す手立てを取る。

・ペープサートを活用する。

区分	学 習 活 動	指導上の留意点
考える	2 「くまくんのたからもの」を読んで話し合う。	・ペープサートで場面や登場人物の様子を表し、具体的にイメージさせる。



ペープサートを適宜板書にも位置付けていくことで、状況の理解も促した。

・動作化やロールプレイを取り入れる。

区分	学 習 活 動	指導上の留意点
考える	② 話の1/3部分を紹介し、いじわるな行動について感じ取る。	・動作化することで場の状況やおおかみとうさぎの様子を捉えさせる。 (おおかみ：八木、うさぎ：藤田)



・ICT機器を活用する。

区分	学 習 活 動	指導上の留意点
考える	② 資料「ぼんたとかんた」(前半)を視聴して話し合う。	・テレビに挿絵を映しながら、教師の範読を通して物語を理解させる。 ・挿絵の掲示



展開前段②～多様な考えを促す発問を工夫する。

児童が自らの考えを確かなものにするためには、他者の多様な考えにふれながら自らの考えを再構築する場が必要であると考える。そのため、これまで「価値理解」に重きを置いていた発問を、「他者理解」「人間理解」とのバランスを十分に考慮した発問にすることで、児童の多様な感じ方や考え方を導き出す授業を目指すこととした。

中心発問の吟味

○道徳的葛藤を生み出す発問

- ～対立軸や自分の立場が明確になるようなしかけ
- ・登場人物を自分と重ね合わせる発問
(「このとき、あなただったら何て声をかけますか。」等)
- ・導入に提示した「テーマ」との関連を図った発問
(「資料の二人は本当の友達と言えるのだろうか。」等)
- ・登場人物の行為の意味や、資料の価値そのものを問う発問
(「〇〇が大切なのは、なぜですか。」等)
- ・資料に描かれていない部分を問う発問
(「なぜこのようになったのだろうか。」等)

補助発問・問い返し

- 中心発問等でより深く考えるように補助する発問
- ・価値についての考えを深めていく問い返し
(個の発言を全体に還元する、根拠の部分を深める、具体例を考えさせる 等)
- ・物事を多面的、多角的に考えていく問い返し
(視点の転換「A ではなく、B から見ても同じですか。」等)

展開後段～自分事に引き寄せて考えるための工夫をする。

○生活場面の写真を提示し、道徳的価値を実践している自分の姿に気付かせたり、実践することの難しさに気付かせたりする。



区分	学 習 活 動	指導上の留意点
深める	3 日常の自分の行動を振り返る。 「みんなが使う場所や物」を、自分たちが、普段どういうふうに使っているか、振り返ってみましょう。」	・資料の提示 写真②～⑨

○資料と同じような事例を提示して考えさせ、実践意欲を喚起させる。

区分	学 習 活 動	指導上の留意点
深める	⑤ 事例を基に、「勇気」についての価値付けを図る。 ●こんな場面になったら、あなたはどんなことを考えたり、行動したりしますか。 【事例】 あるお休みの日のこと。あなたが公園の前を通りかかると、そこにはブランコを独占する高学年の人たちと、ブランコの近くで乗らそうにしている低学年の子が見えました。低学年の子は「ねえ、ブランコ貸してよ。」と言いましたが、高学年の人たちは聞こえないふりをしています。	・事例では、資料と同じように自分よりも立場上の人の誤った行動を正す場面について考えさせる。相手を思う気持ちからでる「勇気」とはどのようなものか、具体的な場面で考えさせていく。



終末～これまでの自分をふり返って記述させ、自己の成長や課題に気付かせる。

○ふり返しシートの活用

児童が自分自身の成長や課題に気付いたり、教師が児童の変容を見取ったりするための手立てとして、授業の終末で毎時間記入する「振り返りシート」の取り組みを始めた。振り返らせたい項目や記述させたい内容はたくさんあるが、毎時間行うことを考えて内容を3つに絞った。

【1・2年生用】	【3～6年生用】
○きょうのじゅぎょうのことをふりかえりましょう。 1 よくかながえることができましたか。 とても・まあまあ・あまり・ぜんぜん	○今日の授業をふり返りましょう。 1 「(その日に学習した内容項目を記述)」についてよく考えることができましたか。 とても・まあまあ・あまり・ぜんぜん
2 ともだちのかながえをきくことができましたか。 とても・まあまあ・あまり・ぜんぜん	2 友だちの考えを聞いて、自分の考えを深めることができましたか。 とても・まあまあ・あまり・ぜんぜん
3 きょうのべんきょうでだいじなことはわかりましたか。 とても・まあまあ・あまり・ぜんぜん	3 今日学んだことについて感想を書きましょう。

授業中の発言や反応が少なく、記述が苦手な児童でも、「その子なりに一生懸命考えていた。」ということが見取れる。

研究仮説との関わりで「他者理解」について質問することとし、3年生以上では、「多面的・多角的な見方への発展」も考えさせている。

○教師の説話や格言の紹介など

教師が意図をもってまとまった話をしたり、格言などを紹介することで、児童は思考を一層深めたり、考えを整理したりするきっかけとなることを期待する。教師が自らを語ることによって児童との信頼関係が増すとともに、教師の人間性がにじみでる説話は、児童の心情に訴え、深い感銘を与えることができる。

・授業の意図に合わせる場合

価値理解なら、「〇〇してよかった体験」 など
人間理解なら、「失敗談」 など



たしかに、そういうのも「勇気」の一つだよな。

先生もそんな失敗するんだ…。



・価値の汎用性を意識させる場合

思いやり→「先生が人の優しさを感じたことは・・・」
尊敬→「先生が尊敬している人は・・・」

尊敬できる人は、有名人じゃなくてもいいの？

※読み物教材の内容と説話を無理に一致させる必要はない。

・教材の内容：席をゆずる→説話：近所の人への挨拶



「恥ずかしい。」とか「自分がしなくても、周りの誰かがするだろう。」って気持ちが似ているなあ。



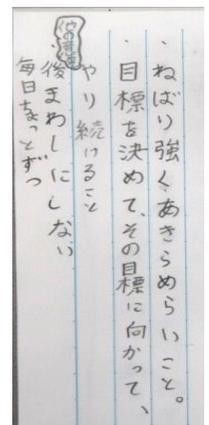
(2) 「道徳の時間」における評価について

- 学習の中で、児童がより多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- 道徳的価値の理解を、自分自身との関わりの中で深めているか。
- 個々の内容項目ごとでなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とする。

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議報告 より

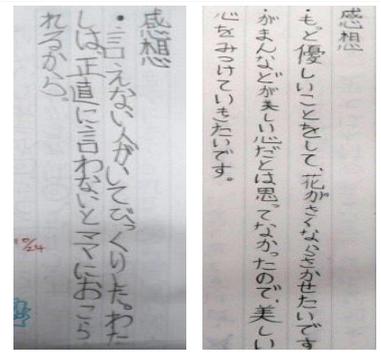
評価のポイント①～多様な考えを受け止めているか。(価値理解・人間理解・他者理解)

- ・一人一人が考えたことを交流する中で、他者の考えに共感や納得をしたり、疑問を感じたり、考えが揺らいだりしている姿が見られることがある。これらの姿は、自分とは異なる考えにふれ、それを受け止めている姿といえるのではないかと考える。交流中の児童の様子を観察し、こうした姿を教師が記録しておくことが必要である。
- ・交流の中で追記しているということは、自分とは異なる考えを受け止めている姿であると考えられる。この児童は、「努力するためにはどんなことが大切か」を考えた際、「ねばり強くあきらめない」、「目標を決めてその目標に向かってやり続ける」という自分の考えに、「後回しにしない」、「毎日ちょっとずつ取り組む」という異なる側面の考えを追記している。多面的な価値理解をしていると評価することができる。



評価のポイント②～多様な考えを受け止めた上で、自分なりの考えをもつことができているか。

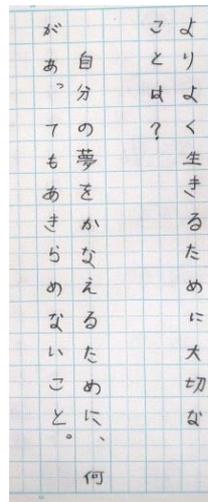
・他者の意見を聞く中で、自分の考えが揺らいだり、変わったりすることがある。あるいは、自分の考えに自信をもったり、考えがより確かなものになったりする。そのいずれもが、「多様な考えを受け止め、自分なりの考えを持った」姿であると考え。そのため、考えの変容のみを重視するような指導、評価の仕方はしないよう留意したい。



評価のポイント③～道徳的価値についての考えを広げ深めることができているか。

・道徳ノートやワークシートの記述を中心に、児童の様子を様々な方法で記録、蓄積すると、その変容を見取ることができる。右の写真は、ある児童の「1-(2) 希望・勇気・努力」の学習における5年時と6年時の記述を比較したものである。この児童は「よりよく生きるために大切なこと」を、いずれも「あきらめないこと」と考えているが、6年時にはそれがより具体的な記述に変わっていることが分かる。このような変容は、道徳的価値についての考えを広げ深めていると評価できると考える。

28年度2月の記述



29年度11月の記述



評価に関わる演習①～授業研究で見取った児童の姿から、

全職員で具体的な評価文例を作成する。

第1回目の授業研究（7月11日：第3学年）では、全職員で具体的な評価文例を作成する演習を行った。抽出児童の様子（発言・表情・態度等すべて）と、全児童の記述内容から、「本時において、考えに最も変容が見られた児童＝評価文を作成しやすい児童」であるAさんを取り上げて考えた。

【Aさんの記述】 (①ひろしの心の声 ②選択した立場とその理由 ③終末：仲間について思ったこと)

①	おせいしケガをしているし、みつおが入るとまけちゃうから。走るのがおせいから。	
②1回目の選択	入れない	(授業の中で、理由を記述させなかった。)
②2回目の選択	入れる	みつおをぬかしてかったら半分うれしいけど、もう半分はうれしくない。
③	運動会の時、はげましあえるから。中休みとか昼休みにいろいろな遊びができるから。	

【職員による評価文例 (一部)】

相手の立場に立つことの大切さを、行事や普段の生活と関連させて考えることができました。

「同じ仲間だから」の授業では、はじめは足の遅い怪我をしている子を休ませる意見でしたが、友達の考えを聞くことで、仲間と一緒に行動し、励まし合うことの大切さに気付くことができました。

【評価文に対する意見】

具体性に欠けるため、児童のよさが保護者に伝わりづらいのではないかと。

教材名を記載されても、保護者はどのような学習をしたのかイメージできないのではないかと。

仲間を大切にする学習を通して、友達の気持ちを考えた発言や行動が日常でも多く見られるようになりました。よりよい人間関係を築くことができています。

道徳の評価では、実践意欲を見取することはあっても、具体的な実践までは求めない方がよい。こうした記述は、所見欄にするべきではないか。

友達の考えを聞きながら、仲間外れをつくってまで勝ちたいという気持ちに疑問を感じ、考え直すことができました。これからも、仲間の気持ちを考えながら生活してほしいです。

教師の願いを記述するかどうかは、難しいところだが・・・。

自分の利害にとらわれて友だちと接するのではなく、仲間の苦手な部分を受け入れ、一緒に活動することの心地よさに気付くことができました。

「友だちについての学習では」などの言葉から書き始めるとより分かりやすいのではないか。

仲間について学ぶ学習では、自分の損得を優先させるよりも、友達の気持ちを受け止めて大切にしようとする考え方を身につけることができました。

どのような学習をして、どのようなことに気づけたのかが分かりやすく伝わる。文章量もこのくらいでよいのではないか。

○同じ児童のことを記述しても、評価者によって文量や書き方に大きな差があることがはっきりした。演習を通して、「どの場面で」「どんな視点で」見取り、「どんな文面で」記述していくかが具体的になり、それらを共有することができた。

- ノートや板書のネームプレートなど、形として残っているものからでないと、振り返ることが難しい。児童の学びをしっかりと綴ることが必要になる。
- 変容がはっきりしていた児童一人の文例を作るだけでも大変なのであれば、ある程度「型となる文例」を作成していくことが必要なのではないか。

評価に関わる演習②～事前に作成した「評価文例」をもとに

授業研究における児童の様子を全職員で見取る。

前述した演習で明らかとなった「型となる文例」の有効性を確かめるべく、第2回目の授業研究（9月11日：第1学年）では、事前に作成した評価文例をもとに児童を見取る演習を行った。

【授業の概要】

1－（3） 善悪の判断、勇気 「ぼんたとかんた」

本時のねらい よいことと悪いことの区別をするために、自分でよく考え、よいことを進んで行おうとする態度を育てる。

本時の流れ

- ・「行ってはいけない」と言われている裏山の秘密基地に誘われたぼんたの気持ちを考える。
- ・立場選択1回目：自分だったらどうするかを考える。「行く」「行かない」「まよう」
- ・「行く」「行かない」それぞれの児童を指名し、ロールプレイを行う。（他者理解の場）
- ・立場選択2回目：自分だったらどうするかを考える。「行く」「行かない」「まよう」

【実際の評価文例】

- ① 善悪の判断について考える学習では、よいことと悪いことの区別をするときに、自分でよく考えることが大切であると気付くことができました。
- ② 善悪の判断について考える学習では、友達の意見を聞いて自分の考えを深めることができました。

①は、「価値理解」の様子を見取るための評価文例である。本時のねらいに沿った、具体的な評価文例を設定した。②は、「他者理解」の様子を見取るための評価文例である。どの内容項目の授業においても用いることができる、抽象的な評価文例を設定した。

【実際の参観シート（一部抜粋）】

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
①、②のように評価し、根拠に丸をつける。	① 発言 記述 表情 態度			
	② 発言 記述 表情 態度			
自由記述欄				

- 児童を評価する場面や規準が明確になるだけでなく、授業の中心や要点を考えることにもつながり、授業改善にも生かせるのではないか。
- 作成した文例を叩き台として、評価の視点や文例内容を改善していくことが可能。
→例えば、②の「深める」を「うなずいて聞いていた。」「比べながら聞いていた。」等、児童の実態や発達段階に応じて文章を変えることで、どの学年でも活用可能。
- 授業者一人で全員を評価するのは不可能。また、「深めることができた」など、見ただけで分かりにくいものは授業内での評価は難しいため、文例の工夫が必要。
- 同じ「評価文例」でも、先生方によって誰に丸を付けたか、いくつ丸を付けたかということの差が大きく、評価の難しさが浮き彫りになった。
- 授業をやる前から「評価文例」を決定しておくことに対して、抵抗感がある。

(3) 教育活動全体における道徳性を見取り

教育活動全体における児童の道徳性を見取っていくために、児童の「よさ」や「成長」を全職員が見取って打ち込み、それを共有・蓄積していく取り組みを行うこととした。

まずは、大きな行事である「学習発表会」と、年間数回の取組がある「縦割り班活動」（〇〇集会、ふれあいランチタイム、秋の炊事遠足、縦割り班縄跳び等）に絞り、取り組んでいるところである。

なお、記述の視点や文量などは指定せず、それぞれの職員が感じたことを自由に記述することとした。

【縦割り班 秋の炊事遠足 1班 担当：上野・横山】

6年 Aさん	<節度>安全面を意識しながら、班の並び方を指示できた。
6年 Bさん	<規則の尊重>1年生と手をつなぎながら、歩くという約束を最後まで意識して行動することが出来た。
6年 Cさん	<勤労>調理の際に、全体のことを考えながら、指示を出したり、自ら働いていた。
5年 Dさん	<勤労>火おこしを友達と協力しながら行った。
5年 Eさん	<責任>班長として、6年生として、下級生の面倒を見たり、全体にテキパキ指示をだしていた。

【縦割り班 秋の炊事遠足 7班 担当：大野・浅利】

6年 Fさん	・下級生に指示をすることの苦手さは見られたが、その分、自分で責任をもって活動しようとしていた。
6年 Gさん	・計画決めの前にあらかじめ準備をしていて、話し合いをスムーズに進めていた。
6年 Hさん	・調理の際、下級生への的確な指示をするなど、高いリーダー性を発揮していた。
5年 Iさん	・縦割り班のお便り作成の担当となり、低学年にも分かりやすい紙面づくりを心がけた。

【学習発表会の取り組みにおける 4年生の様子】

Aさん	・放課後、友達と劇の練習を自主的に行っていた。 ・朝早く登校し、器楽の自主練習に取り組んでいた。
Bさん	・始めは希望外の役になったことに対して不満をもちながら練習に取り組んでいたが、同じ役の友達と一緒に自主練習する中で楽しさを感じ、声の調子を工夫したり、アドリブを考えたりしながら、楽しんで演じることができていた。
Cさん	・うまくできない友達を励ましなが、器楽の練習に取り組んでいた。 ・総練習で見た上学年の演目に感動し、自分の演技を高めようとしていた。
Dさん	・自分から友達を誘って自主練習に取り組んでいた。

○たくさんの目で子どもを見ることで、担任だけでは気付かない一人一人のよさや成長を捉えることができる。また、道徳の時間で学んだことを、日常生活の中で活かそうとしている姿も捉えることができる。

○これらの様子を、道徳の学習の中で「具体例」として活用することもできる。

○現在の「あゆみ」所見欄にも活用できる。

- 多忙な日々の中で、打ち込みが後回しになりがち。記述はよいやり方だが、時間がかかる。観点を決めて丸をつけていくような形だと取り組みやすいのではないか。
- 活発な子どもに目がいきがちになり、まんべんなく全員を見るのが難しい。
- 行事や活動ごとに育てたい道徳性を明確にし、その点に絞って記述してはどうか。

【育てたい道徳性を絞って取り組む：秋の炊事遠足】

	内容項目（別葉より）	具体的な内容
1年	2-(3)信頼友情	・友達と仲よくし、助け合う。
2年	4-(1)規則の尊重	・約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にする。
3年	2-(3)信頼友情	・友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。
4年	4-(1)公德心、規則の尊重	・約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。
5年	2-(3)信頼友情、男女の協力	・互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。
6年	4-(1)公德心、規則の尊重、遵法、権利・義務	・公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。

全学年同じ内容項目を設定して…

【育てたい道徳性を絞って取り組む：運動会】

	内容項目（別葉より）	具体的な内容
1年 2年	2-(3)信頼友情 4-(2)勤労	・友達と仲よくし、助け合う。 ・働くことのよさを感じて、みんなのために働く。
3年 4年	2-(3)信頼友情 4-(2)勤労、社会への奉仕	・友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。 ・働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。
5年	2-(3)信頼友情、男女の協力 4-(2)公正公平、正義	・互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。 ・だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。
6年	2-(3)信頼友情、男女の協力 4-(3)社会的役割の自覚と責任	・互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。 ・身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。

各学年の重点内容項目に合わせて…

【現時点における乙部小学校としての評価の方向性】

基本的な考え方

指導と評価は一体である。児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を適切に見取ることの根底には、「児童の見方がより多面的・多角的なものへと広げる場」や「道徳的価値の理解を、自分自身との関わりの中で深める場」を意識した授業づくりが必要不可欠である。

道徳性の見取りや、実際の「あゆみ」の記述に関わって

- ・演習①で共通理解した記述の仕方をもとに、全ての内容項目の評価文例を作成し、評価の一助とする。（担任によって、文量や内容に大きな差が出ることも防げる。）
- ・実際は内容項目ごとではなく大きくくりな評価となるが、上記の評価文例も活用可能。児童の実際の発言や記述などの具体的な状況から、その児童なりのよさや成長が分かりやすく伝わるように表現していくことを心がける。

例：「（一文目に、道徳科での学習状況や、大きくくりな成長を記述する。）特に、仲間について学ぶ学習では、自分の損得を優先させるよりも、友だちの気持ちを受け止めて大切にしようとする考え方をもつことができました。」

- ・「縦割り班」「学習発表会」以外の場面においても、全職員で児童のよさや成長を見取り、それを蓄積していく。